

矢野健一教授 略歴 主要著書・論文目録

略歴

1984年3月 京都大学 文学部 考古学 卒業
1993年3月 京都大学 考古学 博士課程 単位取得退学
2013年3月 京都大学 博士（文学）

職歴

1995年4月1日 財団法人辰馬考古資料館 学芸員
2002年4月1日 立命館大学 助教授（准教授）
2007年4月1日 立命館大学 教授

委員会・協会等

2011年4月 考古学研究会 常任委員（2014年3月まで）
2013年4月 世界考古学会議第8回京都大会実行委員会 常任委員（2016年3月まで）
2002年4月 関西縄文文化研究会 代表（2015年3月まで）

著書

2016年5月『土器編年にみる西日本の縄文社会』同成社

共編著書

2007年5月～2010年10月『縄文時代の考古学』全12巻 同成社（小杉康、谷口康浩、水ノ江和
同と共編著）
2015年3月『滋賀県米原市杉沢遺跡発掘調査報告』立命館大学（高橋悠、妹尾一樹、鈴木大輔と
共編著）

論文・学会報告・講演目録

1984年3月「近畿地方における押型文土器前半期の編年案」『西日本縄文研究会広島大会資料』
（於：広島大学）（単著）
1988年6月（共同調査項目）「縄文土器」他1項目執筆『上ノ山遺跡』（美方町文化財調査報告書
1）美方町教育委員会（単著）
1988年6月（共同調査項目）「出土遺跡」他1項目執筆『奈良県天理市布留遺跡縄文時代早期の調
査』（『考古学調査研究中間報告14』埋蔵文化財天理教調査団）（単著）
1989年1月「九州縄文文化再考」福岡県荏田町図書館にて講演（単著）
1990年3月「縄文土器」『小路頃才ノ木遺跡発掘調査報告書』（間宮町埋蔵文化財調査報告書（4）
間宮町教育委員会（単著）
1991年6月「近畿からみた中四国縄文早期土器編年の現状と課題」『第2回中四国縄文研究会資料』

- 中四国縄文研究会（於：広島大学）（単著）
- 1992年8月「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『第12回三重県埋蔵文化財展研究集会資料』三重県埋蔵文化財センター（於：斎宮歴史博物館）（単著）
- 1993年3月「押型文土器の起源と変遷」『考古学雑誌』78（単著）
- 1993年3月「美方郡村岡町福岡八幡山縄文遺跡」『但馬考古学』7 但馬考古学研究会（共著）
- 1993年3月「縄文時代中期後葉の瀬戸内地方」『江口貝塚Ⅱ』（愛媛大学法文学部考古学研究報告書第2冊）（単著）
- 1993年3月「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要 三重県埋蔵文化財センター』2（単著）
- 1993年3月「美方郡村岡町福岡八幡山縄文遺跡」『但馬考古学』7 但馬考古学研究会（共著）
- 1993年3月（単独調査項目）「イセ遺跡」『ヨレ遺跡 イセ遺跡 筆田遺跡』匹見町教育委員会
- 1994年3月「縄文後期における器種構成の変化」『江口貝塚Ⅱ』（愛媛大学法文学部考古学研究報告第3冊）（単著）
- 1994年3月「島根県イセ遺跡の紹介」『島根県考古学会誌』11 島根県考古学会（共著）
- 1994年4月「北白川C式併行期の瀬戸内の土器」『古代吉備』16 古代吉備研究会（単著）
- 1994年9月「沢式直後の併行関係」『表裏縄文土器から立野式土器へ』（『長野県考古学会縄文時代（早期）研究部会資料』）（単著）
- 1995年5月「並木式・阿高式の編年観変更の意義」『日本考古学協会第61回総会研究発表要旨』（於：東海大学）（単著）
- 1996年10月「博物館施設の災害復旧手続きに関する事例報告」平成8年度兵庫県博物館協会学芸担当者会議（単独）
- 1996年12月（事典項目）「神宮寺式土器」『日本土器事典』雄山閣出版（単著）
- 1997年1月「中四国地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会（単著）
- 1997年6月「中国地方における縄文時代草創期の様相」『第8回中四国縄文研究会発表資料集』（於：高知市）（単著）
- 1997年12月「縄文集落の定住性と定着性」『考古学研究』44（3）考古学研究会（共著）
- 1998年3月「南九州縄文早期文化の評価」『南九州縄文通信』南九州縄文研究会 No.12（単著）
- 1998年10月 図録『古鏡の世界』（平成10年度秋季展の葉）辰馬考古資料館（単著）
- 1999年3月「兵庫県加西市剣坂古墳調査報告」『辰馬考古資料館 考古学研究紀要』3 財団法人辰馬考古資料館（共著）
- 1999年3月「景初四年銘竜虎鏡の破損と修理」『辰馬考古資料館 考古学研究紀要』3 財団法人辰馬考古資料館（単著）
- 1999年6月「1998年の考古学界の動向—縄文時代（近畿）」『考古学ジャーナル』445 ニューサイエンス社（単著）
- 1999年7月『縄文時代の一万年』（「復元縄文時代のくらし—道具を作る」ほか4項目執筆）集英社（共著）
- 1999年10月 図録『銅鐸・銅剣・銅牙』（平成11年度秋季展の葉）辰馬考古資料館（単著）

- 1999 年 10 月（辞典項目）「コロボックル説」他 40 項目執筆『岩波日本史辞典』岩波書店
- 1999 年 11 月「集落と住居—非環状集落地域」『季刊考古学』69 雄山閣出版（単著）
- 2000 年 3 月「震災後 4 年間を經過して」『地震災害と考古学Ⅰ』日本考古学協会（単著）
- 2000 年 3 月「震災から 5 年」『復する。創る。伝える。震災から 5 年』（『阪神間ミュージアムネットワーク震災復興報告書』阪神間ミュージアムネットワーク推進実行委員会）（単著）
- 2000 年 3 月「出土土器に関する考察」『粟津湖底遺跡 自然流路』（『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2』滋賀県教育委員会）（単著）
- 2000 年 6 月「1999 年の考古学界の動向—縄文時代（近畿）」『考古学ジャーナル』460 ニューサイエンス社（単著）
- 2000 年 10 月 図録『縄文美術』（平成 12 年度秋季展の栞）辰馬考古資料館（単著）
- 2000 年 11 月「なにわの瓦漫遊展開催記録」『甲陽学院所蔵旧「宇津保文庫」考古資料目録土器編（瓦編補遺）』学校法人辰馬育英会・甲陽学院高等学校・中学校（単著）
- 2001 年 3 月「須玖岡本出土の館蔵銅牙」『辰馬考古資料館 考古学研究紀要』4（単著）
- 2001 年 3 月「縄文時代の遺構と遺物—遺物」他 1 点執筆『神戸市東灘区西岡本遺跡』六甲山麓遺跡調査会（単著）
- 2001 年 5 月「西日本の縄文集落」『立命館大学考古学論集Ⅱ』立命館大学考古学論集刊行会（単著）
- 2001 年 10 月 Pottery and Sone tools from the Incipient Jomon in Western Honshu Island, Exploring the contexts for the oldest pottery in the world - An International Symposium organized as part of the Jomon in Cambridge Project（単独）
- 2001 年 10 月 図録『銅鐸を観察する』（平成 13 年度秋季展の栞）辰馬考古資料館（単著）
- 2002 年 11 月「中四国地方における縄文時代早期末前期初頭の土器編年」『環瀬戸内海の考古学—平井勝氏追悼論文集』古代吉備研究会（単著）
- 2003 年 2 月「北部九州地方における押型文土器出現の時期」『立命館文学』578 立命館大学人文学会（単著）
- 2003 年 3 月「井向 1 号銅鐸の保存処理とこれに伴う調査」『辰馬考古資料館研究紀要』5（単著）
- 2003 年 5 月『初期の「型式」と「様式」の相違—山内清男の「型式」と小林行雄の「様式」』『立命館大学考古学論集Ⅲ』立命館大学考古学論集刊行会（単著）
- 2004 年 3 月「西日本における縄文時代住居址数の増減」『文化の多様性と比較考古学』（考古学研究会 50 周年記念論文集）（単著）
- 2004 年 3 月「押型文原体の製作技法の一例—「ネガティブな楕円文」の原体製作実験」『考古論集（河瀬正利先生退官記念論文集）』（単著）
- 2004 年 12 月「磨石類の数量的検討」『縄文時代の石器Ⅲ』関西縄文文化研究会（単著）
- 2005 年 3 月「福井県名田庄村岩の鼻遺跡出土縄文早期土器の胎土調査」『福井県立若狭歴史民俗資料館館報 平成 16 年度』（共著）
- 2005 年 5 月「九州南部における中期前葉の土器編年」『立命館大学考古学論集Ⅳ』（単著）
- 2005 年 11 月「土器型式圏の広域化」『西日本縄文文化の特徴』西日本縄文文化研究会（単著）
- 2005 年 11 月「定住の指標 関西縄文時代における石器・集落の諸様相」『関西縄文論集』2 関西縄文文化研究会（単著）

- 2006 年 8 月「関西地方の後晩期住居」『弥生集落の成立と展開』埋蔵文化財研究会（単著）
- 2006 年 12 月「貯蔵量から見た貯蔵穴」『関西縄文人の生業と環境』関西縄文文化研究会（単著）
- 2007 年 2 月「人口変動からみた縄文時代の特徴」『Local Cultures and Their Interactions in Asia』ソウル大学（単著）
- 2007 年 2 月「押型文土器出現期以前の九州地方と本州地方との地域間関係」『九州における縄文時代早期前葉の土器相』九州縄文研究会（単著）
- 2007 年 11 月「西日本 総論」『季刊考古学』101（単著）
- 2007 年 12 月「関西地方の突帯文土器—京都府の概要」『関西地方の突帯文土器（第 8 回関西縄文文化研究会資料集）』（共著）
- 2008 年 5 月「縄文中期における船元式の九州南部への波及」『吾々の考古学』和田晴吾先生還暦記念論集刊行会（単著）
- 2008 年 6 月 Prehistoric Wasps' Nests in Japan, The 6th World Archaeological Congress Dublin（単独）
- 2009 年 9 月「貯蔵穴の貯蔵量からみた集団規模」『南の縄文・地域文化論考』南九州縄文研究会（単著）
- 2009 年 10 月「向出遺跡の空間分析」『今、よみがえる向出遺跡』阪南市教育委員会（単著）
- 2009 年 12 月「小規模集落の長期定着性」『関西縄文時代の集落と地域社会（第 10 回関西縄文文化研究会 発表要旨集・資料集）』（単著）
- 2009 年 12 月「イギリスの考古学の授業」『考古学研究』56（3）（共著）
- 2010 年 1 月「九州縄文中期土器編年論争の本質」『九州の縄文中期土器を考える』（第 20 回九州縄文研究会 佐賀大会発表要旨・資料集）（単著）
- 2010 年 3 月「向出遺跡の空間分析」『向出遺跡評価検討委員会報告書（阪南市埋蔵文化財報告 47）』（単著）
- 2010 年 7 月「付論 砂粒カウント法による縄文土器分析」『第 17 回京都府埋蔵文化財研究集会資料集 京都府の縄文時代～遺跡・遺物はなぜ動くのか』（共著）
- 2011 年 2 月「貯蔵穴と住居域との関係」『季刊考古学』114（単著）
- 2011 年 3 月「埋めこまれた「原日本」—繰り返されるミネルヴァ論争—」（発表要旨）『考古学研究』57（4）（単著）
- 2011 年 6 月「縄文時代（中部）」『月刊考古学ジャーナル』615（共著）
- 2011 年 10 月 2010 Preliminary Underwater Archaeological ROV Survey at Tsuzuraozaki Site, Lake Biwa, Japan, 14th World Lake Conference（共同）
- 2012 年 3 月「埋めこまれた「原日本」—繰り返されるミネルヴァ論争—」『考古学研究』58（4）（単著）
- 2012 年 5 月「縄文時代（中部）」『月刊考古学ジャーナル』628（共著）
- 2012 年 12 月「滋賀県米原市杉沢遺跡における礫堆積層の調査」『第 13 回関西縄文文化研究会発表要旨集』（共著）
- 2013 年 5 月「近畿地方における縄文草創期土器編年」『立命館大学考古学論集 VI』（単著）
- 2013 年 6 月「書評 木の考古学」『月刊考古学ジャーナル』643（単著）

- 2013 年 12 月「近畿北部縄文早期後半の土器編年」『第 14 回関西縄文文化研究会 但馬の縄文文化』
(単著)
- 2014 年 2 月「押型文土器遺跡数の変化」『東海地方における縄文時代早期前葉の諸問題』東海縄文
研究会 (単著)
- 2014 年 4 月「人類はなぜ、いつ定住したか」『考古学研究会 60 周年記念誌 考古学研究 60 の論点』
考古学研究会 (単著)
- 2014 年 7 月「京都盆地中西部低地、向日市寺戸川縦坑・河床堆積層の文化財科学的研究」『日本文
化財科学会第 31 回大会研究発表要旨集』(共著)
- 2015 年 “Early Agriculture in Japan”『The Cambridge World History Volume II』Cambridge
University (共著)
- 2015 年 4 月 Demographic Fluctuation in Jomon Period of Japan, the 80th Annual Meeting of
Society for America Archaeology (単独)
- 2017 年 2 月「縄文時代における人口問題の重要性」『環太平洋文明研究』1 立命館大学環太平洋
文明研究センター (単著)
- 2017 年 12 月「縄文からみた弥生のはじまり」『第 24 回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 弥生
文化出現期前後の集落について』(単著)
- 2018 年 3 月「鳥取大学所蔵・青島遺跡出土の縄文土器について」『鳥取県立博物館研究報告』55
(共著)
- 2018 年 3 月「西日本縄文社会の「弥生化」」『環太平洋文明研究』2 立命館大学環太平洋文明研究
センター (単著)
- 2019 年 3 月「水中ロボットを利用した葛籠尾崎湖底遺跡調査の成果とその意義」『環太平洋文明研
究』3 立命館大学環太平洋文明研究センター (共著)
- 2020 年 3 月「縄文土器編年研究と人骨発掘」『立命館史学』40 (単著)
- 2020 年 3 月「縄文遺跡から人口動態を探る—シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・
社会」の発表に関連して—」『環太平洋文明研究』4 立命館大学環太平洋文明研究センター
(単著)
- 2020 年 3 月「シンポジウム「超長期的視点から見た人口・環境・社会」概要報告」『立命館大学環
太平洋文明研究』4 立命館大学環太平洋文明研究センター (単著)
- 2020 年 9 月「本州内陸部の宮崎遺跡から出土した成人骨と乳児骨の多元素安定同位体分析」『考古
学と自然科学』81 (共著)
- 2020 年 12 月「南九州縄文中期前半の土器編年再考」『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論
集 4—泉拓良先生縄文研究 50 年記念・関西縄文文化研究会 20 年記念—』(単著)
- 2021 年 9 月「漁師喜助の発見 水中遺跡が語る数千年の営み」『K』002 knit-k (単著)
- 2022 年 3 月 竹倉史人著『土偶を読む—130 年間解かれなかった縄文神話の謎—』(晶文社、
二〇二一年)『立命館史学』42 (単著)
- 2022 年 3 月「垣ノ島 B 遺跡出土漆糸製品の編布復原案と復原実験中間報告」『環太平洋文明研究』
5 立命館大学環太平洋文明研究センター (共著)
- 2022 年 12 月「辰馬考古資料館所蔵の土偶・土製品・石製品」『辰馬考古資料館 考古学研究紀要』

7 (共著)

2023 年 3 月「土器量からみた北白川縄文遺跡群の人口動態に関する予察」『環太平洋文明研究』7
立命館大学環太平洋文明研究センター (共著)

2024 年 3 月 15 日「三内丸山遺跡出土の円筒下層式に伴う枝回転文土器の原体樹種」『特別史跡三
内丸山遺跡研究紀要』5 三内丸山遺跡センター (単著)

2024 年 3 月「土器量からみた人口動態研究の意義—京都市左京区京都大学構内遺跡群の事例研究」
『環太平洋文明研究』8 立命館大学環太平洋文明研究センター (共著)